

令和8年度県立高等学校入学者選抜学力検査 社 会

■ねらいと出題の内容、今後の学習指導のために

1 地理的分野の問題

【ねらい】州を単位とする学習をふまえながら、世界の地理的事象における基礎的・基本的な知識の理解や定着をみるとともに、地図、表、グラフ等様々な資料から有用な情報を適切に選択して活用する技能および思考力、判断力、表現力等をみることをねらいとする。

【出題の内容】(1) 世界地図上における、世界の州と大洋の位置関係の把握について問う問題。世界全体の海や陸地の分布を大観する学びが必要。(2) どの州について書かれた文章かを判断したうえで、大陸名や国際組織の名称を答える。世界のそれぞれの州の特徴をとらえる学びが必要。(3) 地球上の時刻(時差)についての問題。地球上の時刻は東に行くほど早くなること、日付変更線を越えて東に進んだ場合に1日遅らせることなどの知識を活用する。

(4) 地中海性気候の特色について読み取る。①夏に少雨の特徴を持った雨温図を選択する。それぞれの都市は、北半球と南半球、高緯度と低緯度、大陸の東側と西側などの特徴があり、雨温図の読み取りにより判断できる。②気候の特徴に合う農業を選ぶ。(5) 統計から判断することが必要で、国・地域に対する理解の深まりをみる。旧大陸と新大陸の人口密度の違いや経済成長率などから国を判断する。(6) 国旗に着目して、かつての宗主国と植民地の関係を確認し、現在の言語に与える影響を答える問題。

2 地理的分野の問題

【ねらい】関東地方を題材に、基礎的・基本的な知識の理解や定着をみるとともに、地図、グラフ、表等の諸資料から情報を読み取る技能や、読み取った情報を根拠とした思考力、判断力、表現力等をみることをねらいとする。

【出題の内容】(1) 関東平野に広く分布する関東ロームを答える問題。自然環境を大観することが地理学習の基礎である。(2) 関東地方の農業の特色について、自然環境(台地が多く、関東ロームが分布)、社会環境(大都市近郊)の両面から思考する。①関東平野における野菜の栽培についての学びや、群馬の高原キャベツの学びから判断できる。②大都市圏と農業の関係に関する学びに基づいて解答する。(3) 東京都に隣接する三県の製造業の特徴をグラフから読み取る問題。重量の大きな原料や製品の輸送に便利な臨海部に位置する千葉県・神奈川県と、内陸部の埼玉県の違いを判断して解答する。特に東京湾岸の大部分を占めている千葉県は、臨海工業の特徴が明確である。(4) 関東地方の政治、経済の中心である東京都の昼間人口、夜間人口について考えさせる問題。資料の文を的確に読み取ったうえで、表の意味を考える必要がある。(5) 扇状地の一部を切り取った地形図を読み取る。①問題文と、地形図の等高線が扇形の一部となっていることから判断できる。②地形図に関する知識や技能を使い選択肢の正誤を判断する問題。等高線を読み取り、扇状地としての全体像を把握することが必要である。

3 歴史的分野の問題

【ねらい】古代から近世の「日本と世界の交流、貿易」というテーマで、世界史や政治史と関連させつつ、年表にまとめられた事項から歴史を概観する力や基礎的知識の理解や定着をみるとともに、各種の資料を用いて思考力、判断力、表現力等をみることをねらいとする。

【出題の内容】(1) 天平文化に属する仏像を選択する問題。仏像の特徴を、文化の特徴と結びつける学びが必要。(2) 人物名を答える問題。生前の業績だけでなく、死後の影響とも関連させる。(3) ①日宋貿易との関連から平清盛を選択する問題。平氏政権を、政治権力の視点でなく、経済や国際交流の視点からとらえる。②宋との交流という視点から禅宗と答える問題。鎌倉仏教全体を大観して思考する。(4) 倭寇対策としての勘合の使用に関する問題。当時の国際関係を踏まえて表現する力をみる。(5) 戦国時代から安土桃山時代の政治権力をめぐる流れについての年代整序。戦国時代の開始から全国統一までの経過を大きくとらえる学びが望まれる。(6) 徳川家光の出した法令によって朱印船貿易が終了したことを、問題中の資料から読み取って答える問題。歴史上のできごとと江戸幕府の主な将軍というように、歴史的事象や人物を相互に関連付けて学ぶことが必要である。

4 歴史的分野の問題

【ねらい】近代以降の歴史について、「政治と経済の動き」をテーマにしたカードにより日本と世界の近現代の政治、経済に関するできごとを中心とした基礎的知識の理解や定着をみるとともに、諸資料を読み取る技能、読み取った情報や習得した知識等を関連させながら思考力、判断力、表現力等をみることをねらいとする。

【出題の内容】(1) 地租改正の内容を、農地改革と対比させて選択する問題。歴史的事象の内容を理解し、時代背景を踏まえて判断することが求められる。(2) 八幡製鉄所と、当時の日中韓の状況と結びつけた学びを問う問題。①八幡製鉄所の所在県を選択する問題。位置関係に着目する。②中韓の情勢と日清、日露戦争を関連付け、できごとの年代を思考、判断して解答する。(3) 世界恐慌後の各国の対策について2つの小問を対比させるようにした。①税や不況についての知識を活用し、「保護貿易」について思考してまとめる問題。公民的分野とも関連する。②その後のアメリカの政策について答える問題。(4) 「経済の復興」「GHQ」などから時期を判断して選択する。(5) 返還後も沖縄に基地が残ったことなど、歴史的な経緯を考察する学びが必要である。

5 公民的分野の問題

【ねらい】「景気に影響を与える要因」をテーマとして生徒たちが設定した学習課題により、公民的分野における経済分野を中心とした基礎的知識の理解や定着をみるとともに、年金問題や為替相場などについて現実の生活との関わり合いの大きい事項について思考、判断する力をみることをねらいとする。

【出題の内容】(1) 市場における需要と供給、価格に関する基礎的知識をもとに正誤を判断する。グラフを思い浮かべ、曲線の動きをイメージする力が必要。(2) 日本銀行の役割についての問題。表に解答の手がかりとなる単語や表現が入っており、思考、判断によって解答することが可能である。(3) 現役世代の年金制度に関する負担について、基礎的知識を踏まえつつ思考し、記述する。現役世代について、受給世代の高齢化に加え、現役世代の少子化によっても負担増となることに気付くという多面的な思考が必要である。(4) 「直接税」と「間接税」を対比した学びが必要。用語を関連付けた学びが求められる。(5) 「南南問題」という用語が「南北問題」から派生したことを想起して思考する。(6) 為替レートが現実の通貨の交換の際にどう関わるかをシミュレートする。経済の学習では様々な数字が出てくるが、その意味付けを学習者自身が行うような学びが必要である。

6 公民的分野の問題

【ねらい】政治参加の在り方について発表するという学習場面を設定し、公民分野における政治分野を中心とした基礎的知識の理解や定着をみるとともに、政治参加の重要性を認識しながら、資料を踏まえて思考、判断して表現する力をみることをねらいとする。時事問題と関連するトピックをいくつか出題した。

【出題の内容】(1) 「一票の価値の格差」と結びつけ、法の下での平等という基礎的語句の知識の定着をみる。(2) 裁判員制度について正誤を判断する。裁判員が入った裁判についての具体的な学びが必要である。(3) 法律を審議する過程についての問題であるが、衆議院選挙後に話題となった内容を含む。法律が成立するまでの議員の関わりについての学びが必要である。(4) 国際連合の組織に関する問題。「総会」の重要性を理解していること。(5) 「知る権利」と、類似する用語の知識についての問題。それぞれの選択肢について、誰が持つ権利かを判断して思考する。(6) 地方自治に関する問題。①歳入の内訳と「自主財源」についての知識だが、「三割自治」「四割自治」の学びからグラフに示された割合で判断することができる。②地方自治の本旨についての問題。政治参加と住民自治をつなげる思考が必要である。

■今後の学習指導のために

各大問とも、設定された課題やテーマを軸に、基礎的な知識に基づき資料から情報を読み取り、まとめる技能や資料を活用しながら思考、判断する力及び表現する力をみることを大きなねらいとしている。また現実の社会に関心を持ち、時事問題などを学習内容と関連付けるような視点も重要である。また知識を断片的に暗記するのではなく、関連する知識を結び付けたり、まとめて大観したりする力を求めている。このことは、学習指導要領において、学習した知識や技能を有機的に結びつけ、社会的な課題に対処し、解決していく力を育むことを重視していることによるところが大きい。そのためにも、生徒が「社会的な見方・考え方」を働かせることができる授業の推進が求められる。また、単元を通したねらいを実現するための学習課題、学習課題の解決に向けた主体的な学習活動や対話的な学習活動の推進、明確な評価規準を設定した学習指導を実現する評価計画等、生徒の「主体的・対話的で深い学び」につながる学習が求められる。さらに、内容のまとまりを見通した学習指導を行う中で、基礎的な知識の定着や情報を収集する、情報を読み取る、情報をまとめる技能の確実な習得を図るとともに、資料を活用した思考力、判断力、表現力等を育成する活動を一層充実させることが大切である。

■まとめ

上記のとおり社会科の学習指導では、身に付けた知識及び技能を、社会的な事象に対する課題の解決に向けて活用したり、応用したりする力を育むことが求められている。このことを受け、これまでと同様、全分野において資料を活用して思考、判断、表現する力を活用する問題を設定している。地理的分野では、基礎的な知識の確実な習得と様々な資料の活用能力を重視し、地図や統計資料の活用や諸資料をもとに世界や日本の地域的な特徴等について思考、判断、表現する問題を取り入れた。歴史的分野では、知識の確実な習得を図る問題や日本の歴史と世界の歴史とを関連付けた問題、地理的分野・公民的分野と関連させながら多面的に考察する問題を取り入れた。また、公民的分野では、現実の生活に関連する内容を取り上げながら、経済分野においては景気をテーマにししながら国内外の諸課題への視座が必要な問題、政治分野においては政治参加をテーマとして、基礎的基本的な知識の定着を問う問題、現実の社会的な事象をもとに主権者意識を高めることをねらいとして思考、判断して表現する問題を取り入れた。